

【R 5 年度】重点目標の取組・概要（みんな泳げるプロジェクト[学校体育振興事業]）

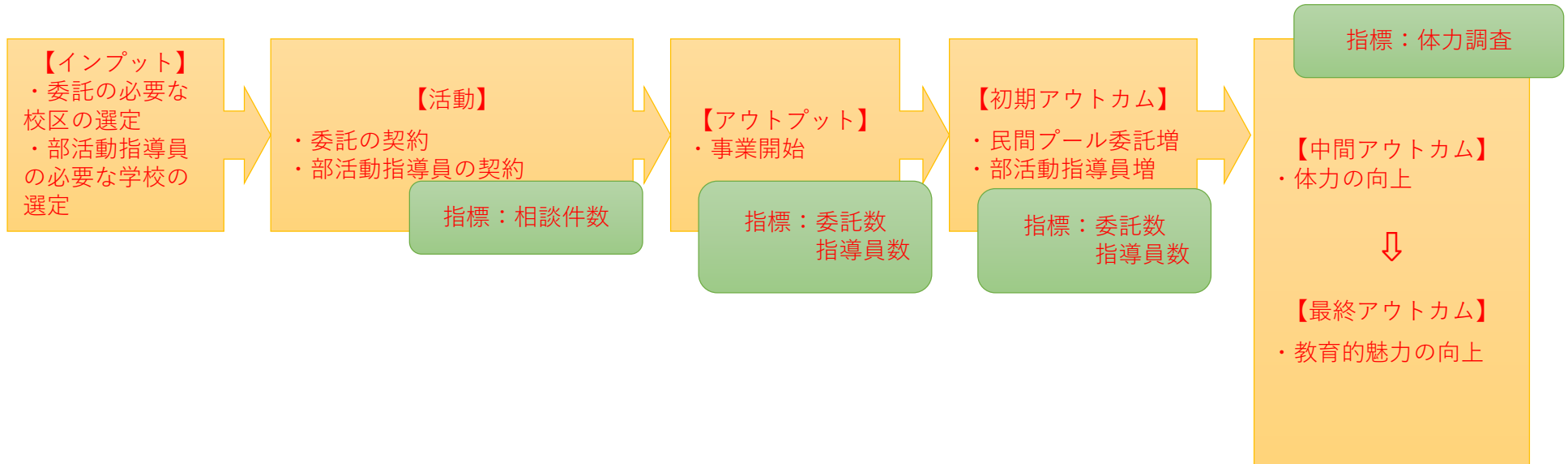
担当課（内線）	学校教育課（５６１４）	重点目標の方向性	子どもの保育・教育環境の向上
重点目標	子育てしやすい岸和田の実現	行政の役割	運動を通した体力向上を推進する

現状と課題	課題に対する取組の内容（めざす成果・期間・対象者・手法など）
市民プールの閉鎖による学校水泳授業の民間プールへの委託化を積極的に進めていく。 （また、児童生徒の体力向上に向けて、小中学校体育科実技講習会や体力向上支援委員会を引き続き実施し、スキップロープチャレンジの取組を推進しつつ、より効果的な取組の計画・実施に向けた協議を進めていく。）	【中期的(4～5年後)にめざす成果】 ・水泳の学習に満足している児童生徒の割合や泳力が向上した児童生徒の割合が、令和4年度実績と比較して向上する ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点が府と同等 【成果に向けての各年度の進め方】 令和５年度に拡充（2校区⇒4校区+α）した後、市民プールの閉鎖状況等をふまえて、必要な校区から民間プールへの委託化を進めていく。 ※現在は、北中、山滝中の2校 【R 5 年度の取組内容（期間・対象者・手法など）】 プールの委託校（区）を2校区から5中学校区（校区内幼・小含む）、及び幼稚園、小学校1校ずつに拡大する。 ・北中学校区、山滝中学校区（継続） ・春木中学校区・葛城中学校区・山直中学校区・八木小学校・幼稚園
R 5 年度の事業費（内訳）	
・プールの民間委託 委託料：37,931,487円（概算）	

R 6 年度以降の想定事業費（ランニング経費）	取組の進捗・成果を測る指標	成果・指標が未達成の場合の取扱い
・プールの民間委託 委託料：38,000千円（概算） 以降増額の可能性有	○水泳の学習に満足している児童生徒の割合 令和5年2月終了時点（小1～6平均） 76.3%（基準値） ➡ 目標値 90.0% ○泳力が向上した児童生徒の割合 令和5年2月終了時点（小1～6平均） 53.4%（基準値） ➡ 目標値 80.0%	・水練学校については、学校水泳事業の民間への委託が全校園に拡充した段階、または市民プールの廃止等により事業終了を検討する。

【R 5 年度】重点目標の取組・ロジックモデル（みんな泳げるプロジェクト[学校体育振興事業]）

ロジックモデル【事業立案時点】



その他（財源、他団体の状況、行政サービスとしての適正性について など）

【R 5 年度】重点目標の取組・評価シート①（みんな泳げるプロジェクト）

担当課（内線）	学校教育課（５６１３）	重点目標の方向性	子どもの保育・教育環境の向上
重点目標	子育てしやすい岸和田の実現	行政の役割	運動を通じた体力向上を推進する

■ 中期的にめざす成果に対する達成度



- 水泳の学習に満足している児童生徒の割合や泳力が向上した児童生徒の割合が、令和４年度実績と比較して向上する
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点が府と同等

■ R 5 年度における達成度（当初の実施予定に対する達成度）



- 令和５年度に拡充（２校区⇒４校区＋α）した後、市民プールの閉鎖状況等をふまえて、必要な校区から民間プールへの委託化を進めていく。

■ R 5 年度において実施・実現できたこと

- 他の市民プールの老朽化より使用できなくなり、令和５年度は５校区と１小学校・園（１２幼稚園・１２小学校・５幼稚園）と令和４年度から拡充することができた。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対男子対府＋０．６ポイント女子対府＋０．７ポイントとなった。

■ 主な「取組の進捗・成果を測る指標」の状況

測定有無	指 標 名	単位	基準値（年次）	目標値（年次）	R 5 年度実績値
○	水泳の学習に満足している児童生徒の割合	%	76.3（R4）	90.0（R8）	55.8%
○	泳力が向上した児童生徒の割合	%	53.4（R4）	80.0（R8）	52.8%
○	全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点		男子対府＋0.2ポイント（R4） 女子対府－0.3ポイント（R4）	対府＋0ポイント	男子対府＋0.6ポイント 女子対府＋0.7ポイント

【R 5年度】重点目標の取組・評価シート②（みんな泳げるプロジェクト）

■ R 5年度において実施・実現できなかったこと

- 「水泳の学習に満足している児童生徒の割合」「泳力が向上した児童生徒の割合」が目標値に達することができなかった。

■ 課題分析

- 目標が「クロールで25m泳ぐことができる」など大きな目標となっており、個々に応じた目標を定めていないことで達成感を得られなかったことが原因と考えられる。

■ ロジックモデルの振り返り

- ロジックモデルについては現状のままで行う。

■ 次年度以降の予定・改善内容

- 子どもが現状より向上できたことで満足感や達成感を得られるよう、個々に応じた目標を定めることにより、成果の指標（「水泳の学習に満足している児童生徒の割合」「泳力が向上した児童生徒の割合」）の向上をめざす。